

| | | | | | | |
|--------|-----|--------------|-----|-----------------|-------|-------|
| 施策 No. | 政策名 | 快適な暮らしのまちづくり | 主管課 | 都市整備課 | 主管課長名 | 今井 克紀 |
| 5-4 | 施策名 | 公共交通の充実 | 関係課 | 企画課、商工観光課、学校教育課 | | |

1. 施策の目的と成果把握

| 目的 | 施策の対象 | 対象指標名 | 単位 | 区分 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 2年度 | 3年度 | |
|-------------------------|---|-------|------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 市民 | | ①桜川市人口 | 人 | 見込値 | 41,278 | 41,008 | 40,738 | 40,467 | 40,197 |
| 実績値 | | | | | 41,278 | 40,483 | 39,692 | 38,905 | 38,422 | |
| | | | | 見込値 | | | | | | |
| | | | | 実績値 | | | | | | |
| 施策の意図 | | | 成果指標名 | 単位 | 区分 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 2年度 | 3年度 |
| | | | | | | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 2年度 | 3年度 |
| 誰もが気軽に公共交通を利用して移動できている。 | | | ①市内の公共交通機関に満足している市民の割合 | % | 目標値 | 20.0 | 22.0 | 24.0 | 26.0 | 28.0 |
| | | | | | 実績値 | 20.2 | 17.5 | 22.4 | 23.8 | 26.1 |
| | ②コミュニティバスの利用者数 | 人 | 目標値 | 18,000 | 38,400 | 68,400 | 72,600 | 76,800 | | |
| | | | 実績値 | 31,273 | 64,179 | 73,132 | 66,859 | 71,353 | | |
| | | | 目標値 | | | | | | | |
| | | | 実績値 | | | | | | | |
| | | | 目標値 | | | | | | | |
| | | | 実績値 | | | | | | | |
| 成果指標設定の考え方 | ①コミュニティバスの運行により、毎年1%程度の満足度上昇を予想している。今後、公共交通の充実に図り、令和3年度には市民の4人に1人以上が満足している状況を目標としている。 ②1便当たり2.5人の利用者数を目標値としたが、平成29年度後半より目標を上回る乗車状況のため見直しが必要である。そこで、桜川市地域公共交通再編実施計画に掲げた、平成33年度の1便当たり利用者数6.0人を目標値とする。(平日:28便×240日、土休日:23便×125日と想定) | | | | | | | | | |
| 成果指標の把握方法と算定式等 | ○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①市内の公共交通機関に満足している市民の割合は、市民アンケートより求める。②コミュニティバスの利用者数は、運行事業者からの利用実績報告より求める。 | | | | | | | | | |

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

| | | | |
|------|--|---|--|
| 実績比較 | <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した | <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した | <input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態) |
| | <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した | <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した | |

背景・要因
市民アンケートで把握している「市内の公共交通機関に満足している市民の割合」について、満足及びやや満足の割合が前年度より2.3ポイント上昇している。これは、桜川市バスが定着したほか、デマンドタクシー、桜川地域医療センター無料送迎ワゴンにより、市民が心配していた病院再編後の通院手段がかなり確保でき、令和2年度から市内巡回ワゴンが運行したためと思われる。
また、コミュニティバスの利用者数は、平成30年度64,179人、令和元年度73,132人、令和2年度66,859人、令和3年度71,353人となった。これは新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、利用者が減少したものが一定程度回復してきたためと思われる。

2) 成果目標の達成状況

| | | | |
|------|---|---|--|
| 実績比較 | <input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った | <input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った | <input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった |
| | <input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った | <input checked="" type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った | |

背景・要因
市民アンケートで把握している「市内の公共交通機関に満足している市民の割合」について、満足及びやや満足の割合が令和3年度は26.1%であり、目標値の28.0%を下回った。この結果から、公共交通について、より一層の充実を求める意見があるものと考えられる。
コミュニティバスの利用者数は、令和3年度は71,353人であり、目標値の76,800人を下回った。要因は新型コロナウイルス感染症拡大の影響と思われるが、急減した令和2年度利用者数と比較すると増加しており、ある程度の回復傾向が見られる。

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

| 施策の成果実績に対する総括 | 今後の課題・方針 |
|--|---|
| <p>令和3年度に成果があった活動は、「コミュニティバス運行事業」である。施策の目指す姿の実現に向けて設定した成果指標については、目標値に達しなかったものの、満足している市民の割合は年々上昇傾向にある。これには、以下の3つの事業が貢献したと考える。</p> <p>(1)コミュニティバス運行事業では、桜川市バスの運行時刻やルートの見直し、待合環境の整備を実施し、利便性の向上を図った。</p> <p>(2)デマンド交通運営事業では、運行事業者との協議を行い、運転手の接客などサービス水準の改善を図った。</p> <p>(3)令和2年4月からの桜川市内巡回ワゴン運行開始に伴い、社会福祉協議会と連携し、いきいきサロン等で利用促進の説明を行い、利用促進を促した。</p> <p>上記3つの事業は、市の公共交通に関する協議を行う地域公共交通会議で協議・検討された上で実施した事業で、今後も公共交通会議と協業しながら適切な事業運営を行っていく。</p> | <p>今後、より良い公共交通網整備に向けて以下の取り組みを重点的に行う。</p> <p>(1)桜川市バスについて、つくバスとの円滑な接続を確保するため、運行ダイヤの見直しを行う。</p> <p>(2)令和2年4月から運行開始した市内巡回ワゴンについて、3年間の実証実験の結果を分析し、今後の方向性を検討する。</p> <p>(3)デマンドタクシーについて、利用実態や費用対効果の検証を行い、より良いサービスへの再編を検討する。</p> <p>(4)地域公共交通に対する市民の意識醸成を図る。</p> |